ひらめき☆ときめきサイエンス　～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI
（研究成果の社会還元・普及事業）

子どもの看護
～看護体験を通して子どもへの支援を考えよう！～実施報告

名古屋市立大学看護学部：山　口　孝　子、山　口　大　輔

【プログラムの概要】

平成27年８月17日に名古屋市立大学看護学部と名古屋市立大学病院で開催しました。応募では、定員の20名を超える62名の高校生より申込みを頂きましたが、抽選で28名とし、当日は高校生27名、保護者２名の合計29名の方にご参加いただきました。

プログラム前半では、「医療における患者様の権利と看護の役割」「プレパレーション」について講義を行った後、現在、取り組んでいる研究の成果を発表しました。後半は、施設見学・看護体験を行ったり、看護師より講話「日々の看護で大切にしていること」をして頂きました。

【当日のスケジュールと内容・様子】

９：40～10：00　受付
10：00～10：15　開講式（挨拶、オリエンテーション、科研費の説明）
10：15～10：50　講義「医療における患者の権利と看護の役割」「プレパレーションとは？～その歴史と内容について～」

医療における患者の権利では、今回、子どもが対象であったため、「児童の権利に関する条約」を中心に説明をしました。また、看護学を学んだことがない高校生にも、看護とは何か？看護師の役割とは何か？について理解でき、さらに興味をもって頂けるように工夫しました。医療の高度化と専門分化が進む中、看護師は子どもの立場になって気持ちを考えたり、子どもにとってどうすることが最もよいか考えることは、どのような時代であっても大切なことであると考えます。

そこで、まず参加者自身の幼少期の医療体験を思い出してもらいながら、子どもの不安・恐怖を軽減でき、検査や処置を乗り越えられるような関わりを参加者と一緒に考えたり、具体的な支援について説明しました。

さらに、子どもといっても新生児期から青年期まで幅広く、それぞれの発達段階も考慮しながら看護する必要性も伝えました。

10：50～11：00　休憩
11：00～11：30　講義「プレパレーションの実際とその効果について」

現在、臨床の看護師の方々と共同で取り組んでいるMRI検査を受ける子どもへのプレパレーションと、それに関する研究成果について説明しました。

iPadを用いて子どもが検査時に体験することを写真と音で説明したり、子ども自身が検査模型を積極的に操作したりすることで、検査へのイメージ作りや疑似体験ができ、非鎮静下で検査を受けることができる子どもが増えています。また、プレパレーションをし、鎮静下での検査となった事例においても、子ども自ら内服できたり、終了後は自ら頑張ったことを主張するなど、子どもの不安・恐怖を軽減したり、自信や達成感を高めるなど、効果が確認されています。

今回はまだデータ収集段階のため事例報告に留まりました。新しいプレパレーションの導入前後で子どもの情緒反応などの違いを統計学的に比較し提示できたら、看護の科学的側面をもっと理解してもらえたかと残念に思いました。

11：30～12：30　ランチョンセミナー

看護師の方々、院内学級の先生、大学の教員や学生とフリーディスカッションしながら昼食をとりました。

12：30～14：30　子どもの療養環境の見学と看護体験

4グループに分かれて、名古屋市立大学病院（小児系病棟、外来、院内学級）の見学や看護体験（プレパレーション、ディストラクション、治癒的遊び）を交代で実施しました。

午前の講義で学んだ「子どもの権利条約」や「プレパレーション」を臨床でどのように取り組んでいるのかについて、看護師や院内学級の教諭から説明を受けたり、看護用具に、触れたりしながら具体的に理解してもらいました。

＜治癒的遊び：“うんち”作り＞

オールブランで“うんち”を作りました。

＜治癒的遊び：シリンジ・ペインティング＞

注射や採血時に使用する実際のシリンジを使って、皆でダイナミックに絵を描きました。

＜プレパレーション＞

手術を受ける子どもにどのようにオリエンテーションするのか？子どもの立場になっていろいろと体験してもらいました。

＜ディストラクション（気そらし）＞

「採血をしなければいけないことはわかっているけど…」子どもなりに医療処置への心の準備はするものの、実際の検査・処置時には不安・恐怖が高まります。医療経験が子どものトラウマとならないように、処置時の対応や環境調整など看護師の方より教えて頂きました。

＜院内学級の先生から＞

病院の中にある小学校。長期入院が必要となる学童期の子どもたちはここで友達や先生と勉強したり、楽しくゲームをしています。今は夏休みでしたが、先生から日頃、どのようなことに気を付け、活動をされているのか、お話を聞きました。

14：30〜15：00　講話

2名の看護師から「日々の看護で大切にしていること」というテーマでお話をして頂きました。

15：00〜15：30　クッキータイム、学びの発表とまとめ、質疑応答

15：30〜16：00　修了式（アンケート記入、未来博士号授与）

＜最後に記念撮影＞

16：00　終了、解散

【参加者の反応】

終了後のアンケートより、今日のプログラムは「とてもおもしろかった・おもしろかった」100%、「とてもわかりやすかった・わかりやすかった」100%、科学への興味は「非常にわいた・少しはわいた」96.3%、研究者（大学の先生）からの話などを聞いて将来自分も研究してみたいと「とても思った・できればしてみたい」85.2%などと回答され、有意義な一日を送って頂けたと思います。

また、参加者はそれぞれの看護師や研究者の看護観に触れ、小児看護に留まらず、看護という専門職に対する理解を深めることができたと考えます。

【おわりに】

今回、このような企画を初めて担当しました。学問としての看護や看護研究というものを高校生の方々にどのように伝えたらよいか、プログラム直前まで悩みました。幸い、周りにはとてもすばらしい病院の看護師の方や院内学級の先生、事務職員の方やゼミ生がいらっしゃり、相談すると、一緒にプログラムを考えて下さったり、プログラムの運営を快く引き受けて下さりました。私たちだけでは参加者にここまでの高い評価は頂けなかったと思います。心より感謝申し上げます。

また、当プログラムは参加者が自主的に応募する形態であり、当初、どれくらい応募があるか、とても不安でした。定員の3倍をこえる申込みがあると聞いたときは、正直、本当に驚きました。多くの高校生が看護について関心をもってくれていることを肝に銘じ、今後も看護教育や研究を進めて行きたいと思います。

【実施協力者】

名古屋市立大学病院
　平岡　　翠様、松井　幸子様、小川　綾花様、
　杉田なつ未様、大向玲美奈様、亀山　敦史様、
　丸山　鉄芳先生（名古屋市立汐路小学校）

名古屋市立大学看護学部成育保健看護学ゼミ
　神谷　里佳様、柘植　求美様、日高菜々子様、
　溝口　絢華様